

# 「孝経」石碑が建立されました



この石碑は、石材の産地として有名な、この會子の故郷中国山東省嘉祥県の石材を用いて、孔子の生誕地曲阜で、藤樹先生直筆の「心画孝経」の字体を手彫りで彫刻したものです。

石碑は、幅120cm、厚さ15cm、高さは台座を含めて約280cm、重さ5tです。

藤樹先生直筆の「心画孝経」全体の約半分、「父母生績第11」まで9000字を刻字してあります。

今回、藤樹先生生誕400年記念に寄せられた皆様の寄付により建立されました。

藤樹先生は生前、夫人やお弟子さんと共に毎日「孝経」を拝誦しておられました。藤樹書院では、今でも1月11日の講書初め、7月23日の常省祭に「孝経」を拝誦します。

「孝経」は、中国の思想家・孔子がその弟子・曾子に「孝」について説いた教えが書かれています。

「孝経」には、「私たちは、父母からいただいたこの心身を大切に、傷つけず、自他の命を大切に、父母、祖父母を尊敬し、祖先を大切に祭り、季節に応じて栽培を工夫し、資源を節約し、勤勉で謙虚に、人々を愛し睦まじく生活することが、孝の実践である」と書かれています。

この石碑は、石材の産地として有名な、この會子の故郷中国山東省嘉祥県の石材を用いて、孔子の生誕地曲阜で、藤樹先生直筆の「心画孝経」の字体を手彫りで彫刻したものです。

## 「近江聖人中江藤樹生誕400年に思う」

高島藤樹会  
会長 上田 藤市郎

委員の皆様には、藤樹先生生誕400年祭実行委員会の事業をはじめ協賛事業や様々な催しに積極的に参加くださり、さらに物心両面から多大のご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。お蔭様で藤樹先生のごことがこれまで以上に広く多くの人々に知られるようになってまいりました。

一人の人間の死後、何年間もその人の業績に思いを込めて継続的に行事が伝えられていくことの原動力は何でしょうか。先生の死後丁重に祭事を行ったのは、先生の縁戚、子弟、塾生や小川村の人たちでしょう。しかし、これも百年を過ぎると、先生の聲咳に接した人たちは皆無となったはずです。それでもなお、この祭事が今に伝わったのは、藤樹先生の「孝」の教えであり、藤樹書院、墓所、藤樹神社などの建物、儒式の祭典、小川村の人々、先生を敬愛する学者や研究者、また式典に参加してきた子どもたちや大人たちであったと思われまふ。私たちは、記念行事という、自分たちの活動を中心に考えるあまり、ともしれば派手な演出に心を奪われがちです。

しかし、藤樹先生生誕400年祭でもっとも大切なことは、藤樹先生「孝」の教え、史跡や建築物、儒式祭典、小川村の人々、藤樹先生顕彰に尽くされた人たちの甚大な功績に、深い感謝の念をもつことではないでしょうか。

藤樹先生が、拝誦しておられた「孝経」の教えには、私たちの過去から未来へ永続して一貫している宇宙や自然の摂理、現代科学の言葉で言えば、遺伝子の継承と尊重という根本思想が基盤にあるように思われます。そこから先祖の祭事の重視、祖父母両親の敬慕、子どもの教育の重視、資源の節約、環境への配慮、博愛、謙虚な生き方などが展開されているように思います。

私たちには、郷土の文化、歴史と伝統をしつかりと後世に伝える義務があります。そのためには、人々の興味や関心をひく新しい催しだけに終わらず、伝わってきた「孝」の教えや建物、祭典などを維持強化し、このことに携わってこられた人々を尊敬し顕彰することが欠かせないと思います。藤樹先生生誕400年の意味はここにあります。

### ◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

先日、JR岡山駅のホームで電車を待っていた男性が、「誰でもよかった」と言う少年に線路に突き落とされ、無残にも命を奪われた事件があったかと思うと、今度は茨城県のJR荒川沖駅で、刃物を振り回す男に八人が殺傷されました。次から次と善良な人が被害に遭い、毎日のように卑屈で悲惨な事件が報道され、それがニュースのトップを独占している。なんとも痛ましく、なんとも悲しく、なんともやり切れない、怒りがこみ上げて来る。

「自由」と「物」と「情報」が有り余るほど豊かになった現代社会。しかし「良心」や「敬愛」や「德行」と言った人間社会を形成する「本」が、現代社会ではなおざりにされつつあるように思える。機よく、今年の中江藤樹先生生誕400年の

この佳節の年に、混沌と殺伐の現代社会が忘れかけている《良知のころ》を、『生誕400年祭』をとおして広めてゆきたいものです。

(※本会報は「中江藤樹生誕400年祭・特集号」とさせていただきます)

会 員 数		【平成20年3月31日現在】
個人	227人	
法人	1社	
計	228人(社)	

(表紙題字) 故竹脇曇卿氏